


## コースナンバー24バレーも佐賀も「トス」が大事、笑って歩くコース

起点	鳥栖駅
	車の方はスタジアム付近に24時間200円の駐車場あり
距離	6キロ
見所	近代化と懐かしの風景が同居
注意点	一部主要道路あり 途中にトイレ無く、商業施設をご利用下さい
ご褒美	すずめ最中、昔ながらのキャンデー
最寄りバス停	鳥栖駅前（西鉄バス）
コース概略	①鳥栖駅降りてスタジアム方面へ高架橋を渡る  ②蒸気機関車268号（明治38年製造） ③藤木緑地を通る（土の感覚が心地よい） ④宝満宮（鳥居は文久元年1861年、対馬との関連） ⑤物流の地鳥栖を感じる道（おなじみのロゴ一杯） ⑥2つめの宝満宮（万延元年の刻ある鳥居） ⑦天満宮（道真公自作の木像由来） ⑧山下川大木川沿いに歩く ⑨鳥栖操作場記念碑（ダイナミックな時代を偲ぶ） ⑩八坂甚八翁の碑（鳥栖発展の礎築く） ⑪ゴール

八坂甚八とは「明治～大正期活躍した大地主で実業家」であった。

九州鉄道（現在のJR）博多、久留米間が開通する際、当初の計画では「田代ヨリ分岐」となっていたが、それを鳥栖へ誘致した。

「九州運輸業界の雄」農業振興にも尽力した人物である。

（「」内A092.1/ト『とすに貢献した人びと』より引用）

